（各課様式１）

予　算　要　求　資　料

令和５年度当初予算　　支出科目 款：農林水産業費　項：林業費　目：森林研究費

事 業 名　研究開発機器等設備整備充実費（単建）（林政）

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

森林研究所　電話番号：0575-33-2585

E-mail：c25108@pref.gifu.lg.jp

１ 事 業 費　　539 千円　（前年度予算額：　　693 千円）

＜財源内訳＞

区　分	事業費	財源内訳							
		国　庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財　産 収　入	寄附金	その他	県　債	一　般 財　源
前年度	693	0	0	0	0	0	0	0	693
要求額	539	0	0	0	0	0	0	0	539
決定額	539	0	0	0	0	0	0	0	539

２ 要 求 内 容

（１）要求の趣旨（現状と課題）

県内産業に「役立つ研究開発と質の高い技術支援」を提供するため、先端的研究に必要となる研究関連機器や施設の充実、老朽化や修繕不可能となった機器の更新を行う。

（２）事業内容

〇植物育成用ｐＨメーター（更新）　１台

【要求理由】

植物によって生育に適するｐＨが異なることから、培地に酸や塩基を加えて目標値に設定するｐＨ調整や、育成場所の成長を評価する指標の一つとして土壌などのｐＨ測定に本機器を使用する。現有の1988年購入のｐＨメーター（DKK株式会社、DHL-10）は、耐用年数を大きく超えており、不具合がいつ発生してもおかしくない状況にある。また、現有機種は既に生産が終了してから18年以上経過し、保守サポートについても2017年3月末で終了となっていることから、不具合が発生しても修理不能である。

〇対物レンズ（新規）　１台

【要求理由】

既存の実体顕微鏡を使って、昆虫や菌類を高倍率（250倍程度）で観察するために使用する。既存の実体顕微鏡は接眼レンズと対物レンズの組み合わせにより、3.75～135倍の倍率で観察することができる。しかし、クロバネキノコバエ類のように体長が数ｍｍと小さいにもかかわらず、分類の難しい昆虫を同定するには、交尾器や上翅点刻など微細な部位の形状を比較するため、250倍程度で観察する必要がある。このため、既存顕微鏡の観察倍率を250倍程度にするには、2倍対物レンズが必要である。本機器の導入により、観察倍率は、3.75～270倍となる。

（３）県負担・補助率の考え方
　県内産業に役立つ研究開発と質の高い技術支援を提供するため、先端的研究に必要となる研究機器の購入であり、県負担は妥当である。

（４）類似事業の有無
　無

３ 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
備品購入費	539	ｐＨメーター　165千円 対物レンズ　374千円
合計	539	

決定額の考え方

事　業　評　価　調　書（県単独補助金除く）

□	新規要求事業
■	継続要求事業

1　事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

先端的研究を行うために必要となる研究関連機器や施設の充実、老朽化や修繕不可能となった機器の更新を行い、研究の効率化や機器の老朽化に伴う研究業務の停滞防止を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前（R　）	R3年度実績	R4年度目標	R5年度目標	終期目標（R　）	達成率
①						
②						

〇指標を設定することができない場合の理由

研究所における研究業務の効率化を図るための機器整備等を行う事業であるため、指標の設定は困難である。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	簡易地盤支持力試験機、ビーズ破砕機を購入した。 老朽化した機器の更新により、研究業務の効率化と精度の向上が図られた。
令和3年度	ブロックせん断試験治具を購入した。 これまでの代替器具から専用器具が使用できるようになり、本試験を精度高く効率的に実施できるようになった。
	指標①　目標：____　実績：____　達成率：____　%
令和4年度	令和６年度当初予算にて追加
	指標①　目標：____　実績：____　達成率：____　%

２ 事業の評価と課題

（事業の評価）

・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） ３：増加している ２：横ばい １：減少している ０：ほとんどない	
（評価） ３	研究の効率化や機器の老朽化に伴う研究業務の停滞防止を図り、企業等が求める研究を推進するために、研究機器や施設の整備は必須の事業である。
・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ３：期待以上の成果あり ２：期待どおりの成果あり １：期待どおりの成果が得られていない ０：ほとんど成果が得られていない	
（評価） ２	研究機器や施設を整備することで、企業や県民が求める研究が効率的に推進できており、事業の有効性は高い。
・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ２：上がっている １：横ばい ０：下がっている	
（評価） １	先端的研究を行うために必要となる研究関連機器や施設の充実に関しては、整備の緊急性や必要性等を総合的に判断し、優先順位を付けたうえで効果的に整備している。

（今後の課題）

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 現在使用している研究機器は、購入してからの年数が長く老朽化しているものが多いため、更新が必要なものが年々増加する。また、高額な研究機器が老朽化や修繕不可能となった場合には予算増となる。

（次年度の方向性）

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 着実に研究成果を上げ、研究業務に支障を来さないようにするためには、継続的な研究機器の整備が必要である。

（他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果）

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	